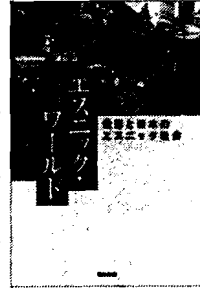


エスニック・ワールド

世界と日本のエスニック社会

山下清海編著



四六判 264頁
 定価 2310円
 2008年発行
 明石書店
 03-5818-1171
 ISBN978-4-7503-2758-7

グローバルゼーションは現代の世界を象徴する言葉であるが、その具体的な現象の1つが、各地で多様な形で形成されているエスニック社会である。この状況を世界的視点から描こうとしたのが本書であり、日本と世界のエスニック社会の動向について、編者も含めて18人の地理学者が執筆している。ところで、ここで検討されるエスニック集団とは、「二つのより大きな社会、特に近・現代の国民社会の枠組みの中より小さな集団、ほかと区別できる何らかの民族的な特色をもっている住民集団」で、共通した文化を持つものである。形成過程からみると、「固有領域的エスニック集団」と「移民エスニック集団」、「先住民エスニック集団」の3つに類型化される。

内容としては3つの章から成り、まず総論にあたる第1章ではエスニック集団やエスニシティ、住み分け、エスニックタウン、エスニック・ビジネスなどの基本的概念とエ

スニック社会の見方や研究方法が説明されている。第2章では海外における日系人と華人、インド人、そして南北アメリカやヨーロッパ、アジア、オセアニアなど世界のエスニック社会の特徴を描いている。最後の第3章は日本のエスニック社会を扱ったもので、アイヌとコリアン、華人、ブラジル人、インド人の社会が取り上げられている。

本書は、執筆者の長年にわたるフィールドワークに基づいて、エスニック社会の伝統的な側面だけでなく、新しい、あるいは一般に知られていない側面も取り上げ、読者に具体的なイメージを伝えるように工夫している。挿入された多くの地図や写真、エスニック社会のトピックを取り上げた20のコラムも理解を深めてくれる。一般読者向けに平易に書かれているが、内容的にかなり高度な面も含んでおり、例えば第1章の概念説明や研究の枠組みの提示などは、専門家やこれからエスニック研究を志す若手研究者、大学院生などにとっても大きな刺激となる。また、ていねいな文献案内が、さらなる知識の獲得や勉学の手がかりを与えてくれる。第一線で活躍する地理学者の研究蓄積を、広く一般社会に還元し、それによって現在の重要な課題である国際交流や異文化理解の促進に、大きく貢献するであろう優れた著作である。

(田林 明・筑波大学)